

心臓リハビリテーション学習会の第2回目は2016年7月6日に臨床検査技師により、「心肺運動負荷について」学習会を行いました。前半は心肺運動負荷試験（以下 CPX）の目的と役割について講義を座学にて行い、後半は検査の仕組みや流れについて実際に検査を実演しました。

CPX の目的と役割とは、トレッドミルやサイクルエルゴメーターなどの運動負荷装置を用いて運動負荷試験を行い、心電図および連続呼気ガス分析装置による呼気中の酸素濃度・二酸化炭素濃度・換気量をリアルタイムに計測し、最高酸素摂取量、嫌気性代謝閾値（AT）などの呼吸・循環・代謝閾値を測定するものです。この検査により、労作性息切れや動悸などの鑑別診断、各種心疾患・心不全の重症度ならびに治療効果判定、運動療法・心臓リハビリテーションの運動処方作成に必要な諸指標が得られます。



【アンケート結果（38名）】

Q1「心肺運動負荷試験（CPX）の目的と役割について」、Q2「検査の仕組み、流れについて」、Q3「実演により、検査の実際を知る」でよくわかった、わかったと回答している方の割合は Q1:75%,Q2:89%,Q3:90%という結果でした。実演したことがとても好評で理解が深まったとのコメントが多かったです。

【参加者の感想】

医師；

- ・ ストレングスエルゴメーターやガス分析装置等、検査装置のハード面の進歩に驚いた。

管理栄養士；

- ・ 最後の解説がわかりやすかった。
- ・ 実演により理解が深まりました。

薬剤師；

- ・講義は難しかったですが、実演してもらうことでイメージがつかめました。
- ・初めてみる機械で勉強になりました
- ・運動処方基準となる AT についてイメージがわかりました。薬剤師がどう関わっているか考えていこうと思います。

看護師；

- ・一度やってみたい、実際に心疾患のある人の実施場面も見たい。
- ・とてもわかりやすかったです。今後は検査データをみるなどしてみたいです

作業療法士；

- ・実演により検査の流れをしっかりと理解できました。データでより、安全な運動負荷を管理しながらリハを行っていてすごいと感じました。
- ・数値を見ながらだと変化が目に見え面白い。本人の感じ方とデータとの差があり、そこは難しい所なのかなと思いました。

【学習会講師より】

- ・心肺運動負荷試験と聞いても普段検査に関わっているスタッフ以外はどういう検査か想像がつかないと思います。そのため今回の学習会では講義に加えて検査の実演もしました。やはり実際に検査をしているところを見るとイメージが掴みやすかったようで、心肺運動負荷試験をより多くの人に知ってもらう良い機会となりました。今まで以上に多職種で連携していけるように今後も定期的に学習会を行う予定です。